

【愛の関係の中でともに成長し、成熟する】

説教者：鄭南哲牧師

今日の聖書本文:ペテロの手紙第一4章7-10節

(Rev.Jung nam-chul)



「7万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。
 8何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。
 9不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい。10それぞれが賜物を受けているので
 から、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！コロナ禍が続いている一週間もいかがお過ごしでしたか。主の平安でみなさんの心と思いが守られて来ましたか。今日も礼拝に来られたみなさん一人一人を主の御名によって歓迎し、祝福をお祈り申し上げます。

みなさんは1世紀のクリスチャンたちとこんにちのクリスチャンの違いは何だと思えますか。イエス様が復活され、昇天されてから初めて立てられた初代教会の共同体、キリスト教の歴史全体を通して一番生き生きしていた共同体、そしてこの世に一番強力な影響を与えたクリスチャンたちがいたら、それは1世紀のクリスチャンたちだと思えます。彼らの生き方と我々の生き方にはどんな違いがあるのでしょうか。

使徒の働きを読んでもと1世紀のクリスチャンたちの特徴は未信者の観点で描写（びょうしゃ）されています。彼らの目で見えたクリスチャンたちの主な印象深い特徴を単語で言うと、それは「迫害と好意」でした。なんとなくあわない単語のように聞こえますが、この二つの単語が1世紀のクリスチャンたちを一番よく表す時に使われていた言葉であることが分かります。初代教会のキリスト者たちはまさに、多くの耐えがたい嵐の中で信仰を守るために、多くの迫害を受けなければなりません。しかし、同時に、すべての民に好意を持たれたという賞賛も書かれています。（使徒の働き2:47「神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。」）そういうわけですから、未信者がクリスチャンたちを迫害しながらも、同時に彼らの生き方があまりにも違ったため認めざるを得ませんでした。彼らをほめざるを得ませんでした。その賞賛の一番の理由は愛でした！1世紀のクリスチャンたちは真実で、完全な愛を分け与える人々だったということです。

使徒ペテロは、終末的な時代を生きているこんにちの人々、特にクリスチャンたちさえも神様の愛から離れていく風潮（ふうちょう）を予め見通しながら、今日の本文にこの警告の言葉をのべています。

今日の本文の始まりは何ですか。「7万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。8何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」今日の御言葉をとおして、神様はいまこそ愛を实践すべき時であり、互いに愛し合う時だと教えて下さっています。

<愛の関係の中でともに成長し、成熟されて行くために>

①各自自分の人生を見つめなおす必要があります。

コロナという嵐の中を通りながら、我々はそれぞれ忙しい今の時代の中に生きています。しかし、ふと立ち止まり、人生を見つめ直す！自分が正しい方向に走り続けているかの振り替えてみる自分の成長のためには欠かせない大切なことではないでしょうか。聖書には「順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ（反省せよ）。これもあれも、神のなさること。（伝道者の書7章14節）」と書かれています。

人生を見つめ直すのには、二つのアプローチがあると思います。一つは、「過去から今を見つめる」ということです。昔を振り返りながら、今の自分を見ることなのです。しかし、ともすると、「昔は良かった、良かった」と、ただ懐古（かいこ）するだけになってしまふこともあります。過去の栄光に縛られて、今を正直に受け入れられずに、「こんなはずではないのに！」と叫んでいる人もいるかもしれません。また、過去に多くの苦しい経験をしたために、未来にまったく希望を持っていないでほとんど否定的に物事見たり、評価したり、自信を失って無気力を訴えている人もいます。これでは見つめ直すどころか、かえって人生をむなしなものにしてしまいますね。

しかし、聖書の視点は、まったく違います。過去を見るなら、神様のなさったことを思い起こしなさい、と教えて下さっています。みなさんがここまで生かされていることの中に、神様の支えを過去の出来事からみつめて見なさい、とすすめているのです。みなさんの中ではある方は自分の人生、何一つ良いことなんてなかった、とおっしゃるかもしれません。しかし、みなさんはこうして生かされているではありませんか。詩篇77篇11節～12節にはこう書かれています。「私は、主のみわざを思い起こします。昔からのあなたのくすしいみわざを思い起こします。12私は、あなたのなさったすべてのことに思い巡らし、あなたのみわざを静かに考えます。」静かに過去を振り返り、神様がみなさんの人生を支えていることを考えてみることは、止まってい

た自分の信仰が成長していくためには大切なことではないでしょうか。

そして、もう一つのアプローチがあります。**それは、「未来を見つめ、今を見る」ということなのです。**未来にある希望をみつめ、待ち望む時、今という時が限りなく、大切な時となっていきます。

聖書に登場する多くの信仰の人物たちも、未来を望みながら、今を一杯生きていたと紹介されています。今の状況や環境が何の希望も見えなく、ずっと今の苦しみが続くような境遇におかれても、彼方(かなた)の永遠の神の御国を見つめながら、神の御前で今を忠実に生きていったのです。

例え、モーセについて聖書はこう証言して下さっています。

ヘブル人への手紙11:24-26「24信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、25はかない罪の楽しみを受けるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。26彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。」

愛する信仰の家族のみなさん！人生を見つめ直すとは、みなさんの人生に神様がともにいてくださり、永遠の御国を待ち望みつつ、生かされていくことなのではないでしょうか。

最近みなさんは自分の人生をどのようにアプローチしているのでしょうか。クリスチャンとして信仰の成長と成熟のために、我々はもう一度自分の人生をアプローチして見なければなりません。

「7万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。」

②神と愛の関係の中でともに成長と成熟の力

愛するみなさん！最近神様の御前でのみなさんの心はどうですか。聖書の詩篇にこういう言葉が出てきます。

「鹿が谷川の流れを慕(した)いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。2私のたましいは、神を生ける神を求めて渴いています」（詩篇42篇1-2節）

みなさんもある程度ご存知のように、パレスチナ地方の川は、日本と違って、いつも水が流れているわけではありません。乾期(かんき)になると多くの川が涸(か)れてしまいます。そこで鹿は、谷川に流れるわずかな水を求めて谷を下がっていくのです。そこは、谷底ですから必死です。この詩篇の作者は、そんな鹿の姿に自分の姿をかぶらせて、必死に神様の助けを、神様の恵みを求める姿を描いているんですね。

ある学者は、この詩篇の作者は、戦いで敗れ、敵国に捕虜として連れて行かれたある祭司が書いたのだらうと言っています。また別の学者は、この作者は女性で、もしかすると奴隷として捕まえられたイスラエルのある女性ではなかったかと言う意見もあります。

どちらにせよ、人生のもっとも大きな困難、絶望の中で歌われた御言葉に間違いありません。しかし、そうした絶望の中で歌われた祈りであり、詩ですが、今日私たちに大きな慰めを与えてくれる神のメッセージになっています。どうしてでしょうか。この詩篇の作者が**生ける神様への渴きを持っていた**からなのです。

私たちの信じている神様は死んだ神ではない、木彫(きぼ)りや石でできたものでもない、**生ける神様だ**ということを知っていました。人生には苦悩があります。困難があります。

しかし、「**私はあなたが必要なのです。私は生ける神様の支えが必要なのです**」と打ち明けて生きることができるのです。みなさんは、今も生きている神様がみなさんとともにおられることを信じますか。聖書の神様は、天地を創造された生ける神様なのです。

「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」（詩篇121篇2節）

まず、われわれが信仰の成長と内側の成熟のために、生ける神様の御前にともに立ち上がり、ともに主を見詰めてもう一度神様の力と恵みの助けをいただくことではないでしょうか。

③我らの成長と成熟を邪魔するもの：＜執着心＞

こんな話を聞いたことがあります。サルを捕まえるためにどうするのか。まずは、壺(つぼ)の中においしい食べ物を入れておきます。さるがやってきて、その壺をのぞくと、おいしいものがはいているのではありませんか。さっそく手を入れてその中の食べ物をわしづかみにします。さあ、問題はここから起こります。たくさんの食べ物を握ったまま手を壺から出そうとすると、壺の入り口が狭くて手がぬけなくなります。

しかし手を離すと食べ物が落ちてしまうので握った手を開くことがサルはできないのです。

そんなことをしているうちに捕まってしまうと、いうわけですね。

握ったものを放さなかったばかりに、結局、たくさんのものを失うことがあります。

私たちの人生から、さわやかさを奪うものがあるなら、その一つは**執着心**だと思います。

これは、何でも握りたがる癖と言ってもよいですね。これも私のもの、あれもわたしのもの。今のこの地位も

権力も名誉も人も、何でも握りたがる癖を、人は持っているのですね。

でも、ギョッと握った手を差し出しても、何も受けることができません。握りしめているのですから。

いつまでもいろいろなことに固執し、執着し、ギョッと握りしめていると、逆に不自由になることもあると知っておくことは大切なことです。

旧約聖書に登場するヨブという人は、いろいろな苦難を経験した人でした。しかし、彼は、こう告白しているのです。**「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」**（ヨブ記1章21節）

人生には様々で出来事が起こります。たくさんものを失い、また手に入れます。私たちは、失うことばかりを心配して、逆に縛られ、不自由になっていることがないでしょうか。そういうことによって我々は主にあってとどまらずに、信仰の根をより深くおろせないため、信仰の成長も内側の成熟ももたらせないのではないのでしょうか。

聖書は、私たちに**「ゆだねる」**という生き方があると教えます。自分の握った手を開いてイエスキリストにゆだねるのです。思い煩いをゆだねるのです。心配事をゆだねるのです。握った手を開きましょう。主にゆだね、信仰の家族にもともに分かち合いつつ祈りあう時実際すべてが満たされ、成長し続けていくのです。

隣の人にこのようにお互い話し合ってください。**「私にはあなたの存在が必要です」**と。

信仰の成長と成熟のため、互いを必要としていることを認める必要があります。

今日の御言葉のように私たちの主イエスキリストの御名によって、**「みなが一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を保つ」**ようにコリント教会のクリスチャンたちに頼られました。

なぜでしょうか。一人としては引き続けて信仰の成長と成熟をもたらすのはできないし、無理なのです。

しかし、事実一般的に、私たちは互いを必要としていることを認めようとしません。それはなぜでしょうか。

二つの理由が考えられます。

<個人主義>

今日私たちの文化が個人主義を称賛しています。わたしたちは、自立している人、すなわち、自分一人でうまくやっていける人を賞賛します。けれども、多くの方は、そのような自身に満ちた外見の裏側に、多くの傷を抱えた、寂しいがりやで、不安に満ちた自分を隠しているではありませんか。孤独は、世界中どこにでもあつる最も一般的な病の一つです。それにもかかわらず、私たちは、互いに橋をかけ合うよりは、依然（いぜん）として壁を作り続けているのです。

マタイの福音書24章12節で、イエス様は終末のきざしについてこう語りました。

「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷(ひ)えます。」そしてこれも言われました。

“信じる者たちさえも、互いに裏切り、憎み合います。”

信じる人々でさえ、愛がなくなる悲劇の時代がやがてくるのだと警告されました。**テモテの手紙第2章1-2節**で、パウロもこのように言いました。**「終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。2そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語(たいげんそうご)し、高ぶり、神を冒瀆(ぼうとく)し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。」**

世の終りが近づくと、もう一つのきざしは自分を愛することです。もっと正確に訳すと**“自分だけを愛する”**です。自分を愛することが間違っていると言っているではありません。自分だけ愛すること、自分ばかり。隣り人に対する関心もなく、本当に自己中心的な考えが支配する時代、これが見られると歴史の末期であるということです。このような時代を生きている私たちは知らず知らず、自分もその時代の影響を受け、隣は知らん顔しながら、自分だけの満足のために生きるのです。

<プライド>

もう一つの理由は、私たちのプライドのためです。多くの人（特に男性）は、助けを求めたり、自分の必要を表現することは、自分の弱さを認めることであると感じています。しかし、**他の人が必要であると認めることは、まったく恥ずかしいことではありません。なぜなら、神様が私たちをそのように造られたからです！**

神様は、私たちクリスチャンが交互（こうご）に、お互いに支え合うことを望んでおられるのです。

私たち人間は、関係の中に生きる存在としてデザインされていることをいつも忘れないでください。

私たちは、神の家族の交わりに加えられ、共同体の一員となるために創造されました。たった一人で生きていくことは、神様の御心ではありません。人が罪のない完全な世界（旧約聖書創世記に出ているエデンの園）に住んでいたときでさえ、神様は**「人がひとりであるのは良くない。」**（創世記2章18節）と言われたのです。

④信仰の成長と成熟のためには、絶対一人では無理です！

神様は孤独を喜ばれません。「人が一人にいるのは良くない」とは神によって造られたすべての人は一人で生きる者ではなく、「すべての人が霊的な家族を必要としている」ということの意味をしています。神様は教会を建てられたのはそのためなのです。神様が皆さんを救い、皆さんを神の家族に迎え入れてくださった時、神様はみなさんの人生を他の兄弟姉妹の人生に織（お）り込まれました。

ですから、我々は単に神様を信じたのではなく、神様の家族に属する者となったのです。

「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です（コリント人への手紙第一12章27節）」「大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人一人は互いに器官なのです（ローマ人への手紙12章5節）」

愛するみなさん！どんな器官であっても、本体から切り離されて存在することはできません。私たちクリスチャンも同様です。体から離れて成長って言うことは言うまでもなく、元気で生きる自体が難しくなります。

ですから、我々はともに成長し、成熟するためには、お互いが必要されていることを認め、またそのように接していきことが大切です。「兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。（ローマ人への手紙12:10）」

新約聖書を読むと、兄弟、姉妹、父、子といった表現が何度も使われていることが分かります。これは天の父なる神と私たちクリスチャンとの関係が、父と子と言ったような家族関係で表現されることが多いためです。

事実、主イエスは弟子たちのことを「兄弟」と呼んでおられます。これは驚くべきことです。兄弟や姉妹と言うのは特別な関係でしょう。そして、クリスチャンの兄弟姉妹の繋がりというのは、地上の家族関係よりも深いものなのです。私たちは最も深い意味で、兄弟姉妹としての親しい神の家族関係を築くよう召されています。

すなわち、互いに分かち合う事、互いに祈り合う事、互いに思いやることなどを具体的に実践する必要があるのです。私たちは同じ神を「天の父」と呼んでいます。その天の父が、私たちを一つの家族となるように集めて下さいました。私たちは本当に互いを必要としているのです。「ですから、私たちは機会があるうちに、すべての人に、特に信仰の家族に善を行いましょう。（ガラテヤ6章10節）」

ここで教えられていることは明確です。私たちは、神の家族に属する兄弟姉妹たちに対して、どのように彼らを支えたらよいのか、どうしたら互いに深くかわりあうことができるのか、愛し合うことができるのか考えなければなりません。

新約聖書では「互いに」という御言葉が込められている箇所は少なくとも**58箇所**あります。

「互いに仕え合いなさい(ガラテヤ5章13)」「互いに受け入れ合いなさい(ローマ15章7節)」「互いに赦し合いなさい(コロサイ3章13節)」「互いに挨拶を交わしなさい(ローマ16章16節)」「互いに重荷を負い合いなさい(ガラテヤ6章2節)」「互いに愛し合いなさい(ローマ12章10節)」「互いに尊敬し合いなさい(ローマ12章10節)」「互いに従いなさい(エペソ5章21節)」「互いに励まし合いなさい(テサロニケ第一5章11節)」神様は人が教会の中で、家の教会の牧場の中で、キリストの愛によって互いに熱心に愛し合い、励まし合い、祈り合い、支え合い、助け合い、交わり合いながら、さらに成長し、成熟していくことができるようにデザインして下さいました。我らは互いに熱心に愛し合い、仕え合いしなければなりません！

*本文「8回よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」

ここで「熱心に」というのは、「運動場で走る選手が早く 走るために全力を尽すこと」という意味です。

⑤信仰の成長と成熟のためには、具体的に賜物を生かし用いて愛し合いましょう。

「10それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者としてその賜物を用いて互いに仕え合いなさい。」(賜物を生かし用いて互いに熱心に愛し合い仕え合う)

賜物というのは言葉通りに神様からのプレゼント。賜物は聖霊の神がキリストの御体である教会の成長と信仰の家族の有益のために、おのおのにそれぞれ与えて下さった霊的な力です。(ヤコブの手紙1章17節・コリント人への手紙第一12章11節)

「皆の益となるために一人ひとりに御霊の現われが与えられているのです」第一コリント人への手紙12:7
メッセージを終わらせます。どんな時よりも互いに熱心に愛し合うべき時を歩んでいます。愛の関係の中で共に成長し、成熟していく為、今自分の人生を改めて見詰め直す必要がある時です。もう一度自分の信仰の成長と成熟のため、神様の愛と力を慕い求めましょう。自身の信仰の成長と内側の成熟のためには、今自身がいたいどんなことやどんなものに執着しているのか、自身の執着心を捨てて、今までの自分の中に妨げとなっていた自己中心や個人主義、プライドを乗り越えていきましょう。神の賜物を十分に生かし、教会の中で、各牧場の中で、お互いの為に用い活用し、ともに愛し合い、励まし合い、助け合い、祈り合い、交わっていく3月のクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の神の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン。